

2023年度休眠預金事業 新型コロナ及び原油価格・物価高騰対応支援枠				
相談機能付き食支援体制整備事業 実行団体公募（追加） 申請団体一覧				
	団体名	所在地	事業名	事業概要
No.1	一般社団法人日本ショーフアー協会	埼玉県さいたま市	ひとり親・多子世帯等への相談付き食支援とミールズ・オン・ホイールズロジシステムを活用した重層的支援事業	<p>【相談】 孤立するひとり親家庭や多子世帯等の生活困窮家庭に対しソーシャルサポートを実施します。食料支援に加え住居・就労・自死念慮（ゲートキーパー活動）の相談機能を備えた多重支援です。すでに実行中の行政等の依頼による緊急支援と同様に夜間も対応し、電話・メール・来訪（昼間）の窓口を開設します。</p> <p>【食料支援】 埼玉県と栃木県のフードパントリーおよび子ども食堂等25ヶ所に食料支援を行います。行政等依頼の個人への緊急支援と外出困難者への食料支援は構築済みの無償配送システムを利用して速達性を優先した配送を行い、受益者の健康ひいては心身の安寧を守ります。</p> <p>【連携】 〈活動団体〉フードパントリー活動団体と緊密な意見交換を行い、定期的なヒアリングも実施した上で食品の提供を行います。〈個人等〉行政依頼の個人や外出困難者には食料提供のつながりから変化や異変をキャッチした場合、各種ソーシャルサポートを行い関係機関につなぎます。</p> <p>〈資金分配団体〉全国食支援活動協力会ご担当者様と連携をとりながら、活動団体が把握する受益者のニーズを取り入れるなど、両者のコーディネート等も行い有益な支援を実行します。ミールズ・オン・ホイールズ・ロジシステムを活用します。</p> <p>〈行政・地域〉埼玉県・栃木県の担当課、各市町村・社協等と連携して実施します。場合により自治会長・民生委員・就労支援団体・犯罪被害者援助アドバイザー・DV支援施設等と連携します。</p> <p>〈周知〉効果的な支援につながるMOWLSを活動団体に知ってもらい、今後の活動に有益な環境を整える目的として勉強会を実施します。</p>
No.2	NPO法人子どもたちの未来を応援するオアシス丸亀	香川県丸亀市	香川県中西讃地域のフードバンクと子どもの居場所を支えるネットワークづくり	<p>貧困状態にある家庭や子供は全体の1割を超えており、この解決は容易でない。本人には責任のない子供たちには貧困の影響が及ばないようにと、多くの善意ある人たちがフードバンクや子ども食堂、子供の居場所づくりといった取り組みを行っており、当法人も直接に支援している。しかしながら、こうした地域に密着した団体のほとんどが小規模かつ財源不足であり、活動の継続にも苦しんでいる現状である。特に悩みは、配布する食料を提供できる企業等が身近に少ないことや、寄付が集まりにくいことである。このため、多くの団体の事業が主催者の個人負担なしには継続できなという弱い基盤の上にあるのが現状である。求められている行政の支援も現状では不十分で、フードバンクへの支援については皆無に等しい。</p> <p>そうした中で、地域（香川県中西讃）に小さな団体を中間支援できるフードバンク団体を作ることが多くの団体から求められている。これにより、他の圏域からの食料品受け入れや地元企業などへの食品提供、寄付の呼びかけ等が実行できると期待されている。</p> <p>地域中核的なフードバンク団体は、全国レベルで活動するフードバンク団体と連携して、大量な食糧、遠隔地の食糧などを受け入れられる体制を作る。同時に個別の子ども支援団体に対しては必要な食糧を必要だけ届けられるようなマッチングシステムを構築して運用すること</p>
No.3	社会福祉法人琴平町社会福祉協議会	香川県琴平町	相談機能付き食支援体制整備事業	<p>相談機能付き食支援事業を行うにあたり、事業実施の組織を発足して、地域から孤立孤独になりやすい人々を把握して伴走型支援により支えあいができる地域づくりに努めていきます。</p> <p>また、琴平町食生活改善推進員協議会、琴平町母子愛育会、K3（ケースリー・琴平の子育てを考える会）等に対して事業の主旨を啓発し、各団体の活動を支援をしながら、コーディネートにかかる費用及び支援食品・物資の購入費用を助成し、食支援を通じたニーズ把握、アウトリーチ活動等を行うための取り組みを支援する。</p> <p>さらに、子ども食堂等居場所づくり団体の対する、食品提供活動を通じて、団体が支援している生活困窮や孤立しているひとり親世帯等に対して、福祉関連機関等につなぐために啓発チラシを作成して琴平町の全世帯にアウトリーチするべく相談支援を繋がるネットワークの構築に取り組んでいきます。アウトリーチ用として、熱中症対策、フードバンク用食品購入し、食支援を通じて、生活支援に取り組む。</p>

No.4	NPO法人Joyステーション	鹿児島県霧島市	1人親世帯・生活困窮者等利用者の声を反映した食材・食品配布支援&相談事業	<p>これまで3年間にわたり鹿児島県の貧困者支援事業を受託して2021年（弁当）、2022年（無添加ソーセージ）そして今年度は植物ミネラル配合の無添加米粉蒸しパンを50世帯に対して配布してきました。特に、昨年に配布した無添加ソーセージを50世帯への配布でしたが反応が大きくて驚きました。助成金の金額の関係で1家庭に3本の無添加ソーセージでしたが無添加への反応が大きくて興味・関心の高さを実感しました。</p> <p>ある研究によると子どもの学力低下と子どもの病気発生率が貧困家庭と正比例するとのデータがありますが、ジャンクフードが成長期の子どもには危険であると理解していても安い食材以外を選択せざるを得ない現状を実感しました。そこで、昨年無添加ソーセージ調理を下さった料理研究家の永野治子先生にパン食の小麦の危険性について相談し栄養価の高い「無添加米粉蒸しパン」に植物ミネラルを配合して調理していただきました。</p> <p>小麦のグリテンはアレルギーの危険性だけでなく毎日食していると青年期頃にはセリアック病を発生することドクターが異口同音に著書等で発表しています。</p> <p>また、農林水産省と厚生労働省のホームページでは「グリテンフリー」の奨励が記載されています。日本中の家庭の朝食と学校給食にパン食の多い中に「大海に小石を投じる」ようなものかもしれませんが、貴財団の助成金により「小石」が大きな波紋を生み出してくれるのを無くとも期待しています。</p>
No.5	一般社団法人児童養護施設支援協会	和歌山県和歌山市	相談機能付き食支援体制整備事業	<p>1. 相談支援の充実のため、相談スキルの伝授と相談活動の実施。</p> <p>食品提供活動を通じて、発見した生活困窮、孤立しがちな家庭や子ども、特にひとり親世帯等に対して、必要に応じて教育機関や福祉関連機関に「つなぐ」ための相談支援を行う。忙しいひとり親への有効な支援として、オンライン相談システムを定期的に行うとともに、アウトリーチにより、こどもの安心安全を直接見守る。そのための知識やスキル向上のため、地域の他のこども食堂運営団体とスタッフ向け共同研修会を行う。その際、児童相談所とも連携する。</p> <p>2. 食材配布の拠点となり、寄付食品のマッチング機能を有したWEBシステム整備により、和歌山県北部を中心としたミールズ・ホイールズプロジェクトの基礎を形成する。</p> <p>こども未来課協力のもと、ふるさと納税のサイトのように県内のこども食堂の一覧と、寄付したい場合に、すぐにアクセスできるホームページの整備に努める。ホームページ作成には、精神障害がありながらWEB制作にあたる事業所に依頼し、地域の相互扶助の仕組みを活用する予定である。そのようにして県内のダイバーシティの促進支援も心掛ける。</p> <p>企業からの食品提供を、支援が必要なひとり親等世帯に対するアウトリーチ用として、有効に食品を配布し、食支援を通じたひとり親世帯などの生活支援に取り組む。母子生活支援施設、児童自立支援施設など、施設への定期的な食材寄付にも率先する。</p>
No.6	一般社団法人つなぐ子ども未来	愛知県名古屋市	『みんなのれいぞうこネットワーク』における相談機能付き中間支援体制整備事業	<p>私たちは、「公共冷蔵庫：みんなのれいぞうこ」を通じた食糧支援を実施していることにより、現下の社会情勢の中で孤立しがちな、ひとり親家庭、独居老人や若者などに数多くのつながりがあります。食糧を受領する「恥ずかしさ」よりも、必要性や緊急性に迫られて利用を申し込む人は「何等かのサポートを求めている人であり」「社会施策の網の目からこぼれた人」と考え、まず食糧支援からつながりを持っています。24時間非対面で受け取りができる冷蔵庫の整備は、非対面から始まる関係性ではありますが、LINEなどを通じて、利用者の日常的な不安や心の悩みに寄り添うことが可能となっています。対面を希望した相談支援、食糧以外の有効な支援方法の提案、行政との間に入った仲介など、よろず相談所の役割も果たしています。</p> <p>「みんなのれいぞうこ」は社会的弱者を救うための有効なインフラとして位置づけ、来期に子ども食堂等に広げていく「横展開」を検討しています。愛知県内だけでも300か所以上の子どもの食堂がありますが、「みんなのれいぞうこ」に興味があり、食糧支援だけでなく、生活困窮者や孤立した家庭等をサポートする事に関心を持ち、活動を実施している団体と連携しネットワークを構築していきます。本助成により、各団体への食品供給ルート構築して、生活困難者への食糧支援の輪を広げます。また、将来の「冷蔵庫」設置を見据えたとき、重複的課題をもつ利用者ともつながる中で、食糧支援だけでなく、総合的な生活支援が求められることになり、地域でフォローしていく事の困難さが想定されるため、連携団体の社会的課題の解決能力の上昇に向けた相談にも取り組みます。</p> <p>潜在的にいる困難家庭への支援方法の共有化を、この中間支援では行います。行政など多くの機関を巻き込んだ「みんなのれいぞうこネットワーク構想」は生活困窮者への支援拡大のフェーズが変わってくるのが期待できます。</p>

No.7	一般社団法人日本食養協会	和歌山県紀の川市	記載なし	2011年の震災から母子疎開してきた経済的に不安定な親子の支援から開始。特徴は『種まきから作って食べる子ども食堂』として、自然栽培のお米を3世代で育て他府県からも子ども食堂視察や体験においでます。寄付を生かして食材のパントリー、古民家の縁側ステージで歌や手品の司会等、子たちのアイデアで計画しています。夏は川遊び、冬は餅つき、餅投げ、つきたてのお餅でいちご大福や柿大福を作り。化学調味料や冷凍食品を使用せず、食の質と手作りを大切にしています。
------	--------------	----------	------	---